

## 文藻外語大学交換留学 報告書

2022 年度長期交換留学

文化学部文化学科

213053 坂口莉沙

2022 年 9 月 25 日から 2023 年 8 月 27 日まで台湾にある文藻外語大学に留学していました。留学生生活を終え、1 か月が経とうとしている今でも、まだもっと台湾で暮らしたいなという気持ちでいっぱいです。

私は本来、北京聯合大学旅游学院に留学する予定でした。しかし昨年の初夏頃は大陸の方ではまだ交換留学生として居留できるビザが再開されておらず、留学に行けるかどうか不確定な状況でした。そんな中、台湾に留学できるかもしれないという選択肢を貰い、かなりの葛藤の末に大陸ではなく、台湾への交換留学を選択しました。

私が台湾へ留学するにあたって懸念していた点は、台湾では繁体字が使用されていること、語学力があまり向上しないのではないかというふたつです。中国語を学ぶ際のテキストや語学番組、授業などでは大陸で使われている簡体字を用いて学んできました。しかし台湾では繁体字が使われており、繁体字になじみがなかった私は繁体字が読めるようになるのかとても不安でした。また、台湾に留学した場合、留学先である文藻外語大学は日本語学科があったり、日本人留学生がそれなりにいると聞いていたので、つい日本語ばかり喋ってしまい中国語があまりわからないまま帰国になってしまわないかも不安でした。しかし、結論から言うと私の場合はどちらも問題なかったです。繁体字は最初のうちは戸惑ってしまうことが多くありましたが、生活していくうちに慣れていきました。語学力の向上についても、日常生活を送るうえで中国語を使っていたらだんだん聞き取れるようになり、留学前よりも語学力は上がったと実感しています。

授業は、華語中心という大学内にある中国語センターの中国語クラス（毎日 2 時間）と日本語学科の科目として開講されている授業を週に 3~6 単位ほど受けていました。中国語クラスの授業は教科書の内容を一学期間で 8 単元程勉強しました。毎週のように単語テストや小テスト、もちろん中間テストや期末テストもあり毎日中国語の勉強は欠かせないのでしんどく感じるときもありましたが、それ以上に授業はとても楽しかったです。その他に児童、青少年文学の授業（英語）やスケッチ、日本の時事問題の記事を読む授業なども受けていました。日本語での授業だけでなく英語での授業も受けたりしていました。それらの授業も小テストや中間、期末テストがあるのでテスト期間は夜遅くまで勉強することが多かったです。

生活に関しては、寮生活だったので 4 人一部屋でした。私は後期から友達がいる部屋に移動したのですが、寮生活に関しては本当に部屋によりルームメイトとの距離感や部屋の雰囲気は異なると実感しました。後期のルームメイトはみな仲が良く、夜ご飯を一緒に食

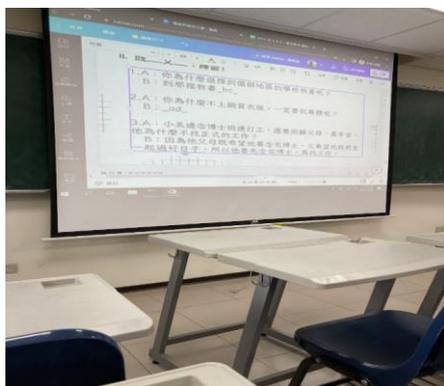
べに行くことが多かったです。その他にも音楽を流して踊ったり歌ったり、夜遅くまで話をしたりすることもあり、他の人との共同生活もいいものかも？と感じていました。休日は独りでんびり過ごす他にもよく出かけていました。台湾は高知とは違い都会なので、バスの路線が多いほか、MRT（地下鉄）などもあり気軽に出かけることが出来ました。私は普段日本にいて地下鉄に乗る機会がほとんどないので、MRTに乗るのがとても楽しくバスでも行ける場所でもよくMRTを利用したりしていました。交通費も日本よりも安いので、バスだと往復100円しないくらいだったと思います。

授業が休みの日によく遊びに行ったりしていたのですが、その中でも私が特に好きな都市は台南です。台南は高雄から火車（感覚としてはJRのような普通列車）の各駅停車でも1時間ほどで行くことができるのでよく日帰りでふらりと遊びに行っていました。そんな台南の魅力は昔ながらの街並みを感じられる点だと思います。特に火車の台南駅は古さがあり、とても落ち着く感じがします。また、台南駅から少し歩くと美術館や文学館など芸術に触れることもできる場所がたくさんありました。そのほかにも美味しいごはんのお店や、カフェなどもあり、台南に行くたびにいつい食べ過ぎてしまうこともありました。

留学を通じて、たくさんの場所に行ったり、台湾ならではの経験を得ることができたので、短いながらもとても充実して意義のある日々を過ごせたと思います。中国語はもちろんのこと、学んだことや身に着けたことをこれからの日々を生かしていきたいと思えます。



←台湾で定番の朝ごはんの蛋餅です。中の具材はお肉や野菜、チーズを入れるか入れないかなどいろいろ選ぶことができます。お昼ご飯に食べることも多かったです。



←中国語クラスの授業風景です。後期のクラスは難易度が上がり例文も前期よりも難しいものが多かったです。